



第九たいむず

Beethoven

No.21 2015.10.22 通刊1163号 担当 幸代

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0863 高崎市聖石町9-13(赤羽方) TEL/FAX:027-322-0996 緊急 090-1828-8052(小野里)



合宿も終わり矢崎先生の指揮者レッスンの日程も決まり、いよいよ本番が近づいて参りました。合宿に参加された人、参加出来なかった人も心をつにして本番に向けて練習に励んでいきましょう。

◆ 合宿、無事に終了しました。先生方ありがとうございました。

17日、18日の軽井沢合宿は約70名が参加して行われ充実した時間が持てました。1日目の練習終了後の夕食のビールはとてもおいしかったのではないのでしょうか。普段話すことのない人たちとのおしゃべりやホールでピアノやギターで歌う楽しさ。あっという間のひと時でした。

2日目爽やかな朝を迎え木村先生のベートーベン、シラーについての講義。遥か昔の音楽の授業を思い出しました。

合宿の最後は毎年恒例の全員輪になって団内ソリスト、ソプラノ木村先生、メゾソプラノ瀧川先生、テノールとバリトンの2足わらじで活躍してくれた外處さん、ユリヤ先生のすばらしいピアノで赤羽先生の指揮の下、第九を歌い合宿の最後を締めくくりました。今年初めて参加した新人さんは細かく指導してくださり参加してよかった。学生時代に戻ったような時間が持てましたと楽しそうに話してくれました。



最後の仕上げ演奏を、Youtubeにアップしました。↓

↑

インターネット、Youtubeを開き、「高崎第九合唱団2015」で検索し、「KAZUNORI OSATO」をクリックすると、3つの動画を見ることができます。結構なものですよ！

◆ 指揮者レッスンは12月3日、17日です。

今年の指揮者レッスンは矢崎先生のご意向で2回あります。この日は遅れない様に、また出来るだけお休みをしないように今から予定を入れておきましょう

◆ チケットについて

団員の皆様にチケットが配布されました。まだ受け取っていない人は受付に申し出てください。配布した分が売れ残ると、演奏会収支に大きく影響を与えます。また指定席が、あちこちに穴が空くというみっともない結果にも繋がります。1枚でも多く販売する努力をして下さい。自分たちで作上げる演奏会の意識を持って42回演奏会を成功させましょう。チケットは1枚でも売れたらその都度受付で精算してください。チケットが足りなくなってしまった方、周りの人に声を掛けてみてください。

チケットを譲る人、譲ってもらう人は二人一緒に必ず受付へ封筒を持って来て下さい。

チケットぴあ情報: S席先行予約で売り切れの報もありましたが、誤りで現時点残席があります。どうしてもS席という方、チケットぴあ、赤羽楽器で買うのも一つの方法です。

◆ 第九演奏会のポスターを貼り、チラシを配りましょう！フラッグも出ます！！

第九演奏会のチラシ、ポスターが出来上がっています。ポスターを貼り、チラシを配りコンサートの宣伝をしましょう。私達が宣伝しないと誰もしてくれません。**いつやるか！今でしょう！！**

11月3日からシンフォニーロードに「高崎の第九」のフラッグも掲げられます。先日撮影の「パリッシュ」11月号も11月に配布されます。皆さんで協力して宣伝してチケット販売に結びつけましょう！

◆ 今後の予定

- 11月 6日(金) ドイツ・トリアー公演
- 11月12日(木) 駐車券精算(11月5日を変更します。)
- 12月 3日(木) 指揮者レッスン
- 12月 5日(土) ドイツ公演 解団式 18:00～(メトロポリタン高崎)
- 12月17日(木) 指揮者レッスン
- 12月19日(土) 第42回 第九演奏会(群馬音楽センター)

◆ イベント情報

★合唱団みさと女声 11月21日(土)13:30開場 14:00開演 高崎シティギャラリーコアホール

第7回定期演奏会です。賛助出演 中之条男声合唱団。木下牧子アカペラセレクション、ユーミンストリート他、招待券を差し上げますのでソプラノ・桑原まで声を掛けてください。

◆ 「No9ー不滅の旋律」を観て来ました 赤羽洋子

10月11日藤岡みかぼみらいで「群馬県合唱祭」が有り「合唱団 JOY」と「メンネルコール JOY」が出演しました。県内の合唱人口は最近減少していますが、私の関係している合唱団は高崎第九合唱団を初め年々発展傾向にあり頼もしいかぎりです。午前中合唱祭に出演してその足で赤坂アクトシアターにお芝居を観に行きました。30年以上 Beethoven と向き合っている私は Beethoven と聞くと何故か全て観ておかなければと心が動いてしまいます。アクトシアターとは第九関連で縁が有り、柿落して熊川哲也のバレエでの第九を観に行った記憶もあります。

「楽聖」と言う偉大な称号を持つ作曲家 Beethoven。音楽家として人間として劇的な人生を送った Beethoven が最後の交響曲第九を作曲するまでどんな時間を生きたかがテーマです。狂気と歓喜が入り混じって彼の頭の中はどんな音が鳴り響いていたのでしょうか？子供の頃、父親に虐待に等しい音楽教育を受けた感覚から生涯抜け出せないでトラウマのような妄想に悩まされたのも彼を形成している一つの要因だったのでしょうか。貧困、孤独、平民として貴族社会から差別され、貴族女性との報われない愛、ナポレオンに心酔したが背かれての反発、二人の弟との確執、甥カールへの自己満足的な愛、そしてなにより音楽家として命とも言える「聴力」を失うという決定的悲劇等 Beethoven の音楽家としての人間像が分かり易く3時間の劇に収められています。舞台は3人のピアニストの生演奏が続き、聞き覚えの有る曲が次から次に演奏されます。合唱団が歌う第九が劇場空間に高らかに響き渡り迫力が有りました。天才作曲家の頭の中に有るメロディーが鳴り響いているのが聞こえるような気がしました

◆ バス安達さんの第九歌詞直訳研究の力作をホームページに掲載中！！

バス安達伸一さんが、今次のドイツ演奏旅行に向けドイツ語を勉強し直し、その延長としてドイツ語歌詞の直訳をされています。何度も見直した第九歌詞直訳作業を区切りつけました。素晴らしい資料です。メールアドレスを持つ方には、既にメールで提供されていますが、第九ホームページに会員パスワードを付け、アップします。見られない方には、プリントしてお分けしますので、バス大里にお申し込みください。